

お知らせ

記者発表資料

令和元年 7 月 2 5 日配布

■ 同時発表先 : 合同庁舎記者クラブ、広島県政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

今後の太田川水系河川整備計画の方向性について 学識者からご意見を頂きました

～ 第 1 2 回太田川河川整備懇談会 議事速報～

第 1 2 回太田川河川整備懇談会（令和元年7月24日）では、太田川のさらなる治水安全度向上を目指した今後の方向性について説明を行い、ご意見をいただきました。

当日の議事速報については、別紙議事要旨を参照ください。

＜過去の河川整備懇談会資料 : <http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/plan2/index01.htm>＞

※太田川河川整備懇談会とは

太田川水系河川整備計画【国管理区間】について、河川法第16条の2にもとづき、河川に関し学識経験を有する者の意見を聴く場です

＜参考：第12回 太田川河川整備懇談会 開催日時＞

1. 日時：令和元年 7 月 2 4 日（水） 1 5 時 0 0 分～ 1 7 時 0 0 分
2. 会場：広島YMCA国際文化センター 2号館地下1階（広島県広島市中区八丁堀7-11）

＜問い合わせ先＞



国土交通省 中国地方整備局 太田川河川事務所
副所長（改修） 阪木 浩二（さかき こうじ）
調査設計課長 入川 直之（いりかわ なおゆき）
TEL 0 8 2 - 2 2 2 - 9 2 4 5（直通）

第 1 2 回太田川河川整備懇談会 議事要旨

- 近年、製造品出荷額が増加傾向となっているなど、下流域を洪水から守ることの重要性が高まっている。また、太田川本川は、近年頻発化・激甚化する降雨状況を鑑み、平成30年7月豪雨ならびに気候変動の状況をふまえた新たな整備目標を設定する必要がある。
- 太田川本川の新たな整備目標の考え方として、気候変動をふまえた流量および確率規模による多面的な妥当性を確認し、設定する必要がある。
- 本川上流域が多雨といった太田川流域の特性を踏まえて、既設の温井ダム、電力ダムの活用など、既存ストックを有効活用した対策をコスト、実現性、環境面等を考慮して検討する必要がある。
- 三篠川の河道掘削においては、瀬・淵・瀬^{とろ}の形成および新たな生物相の形成、魚種の増加をイメージして環境配慮事項を整理する必要がある。
- 防災減災に関する情報発信等のソフト施策の取組みについて、適切に河川整備計画本文へ反映する必要がある。